

【富山県南砺市】
校務 DX 計画

1 南砺市の校務DXの取組について

南砺市では、令和7年中に校務用端末を更改する計画としており、併せて校務用端末及び指導者用タブレットの一体化を図ることとしている。また、ネットワークの再構築を実施し、無線LAN環境にて端末使用を行うこととしている。校務用端末を学校内どこでも使用することが可能となり、効率的な働き方が出来る環境を整える。さらに、Microsoft アカウントを全ての教職員に付与し、Microsoft365 を活用した校務ができる体制で、以下の校務 DX に取り組む。

(1) クラウドサービス活用の推進

Microsoft365 はじめクラウドサービス等の活用を推進するため、環境整備、研修会の開催を行い教員の働き方改革を図る。

(2) ペーパーレスの推進

職員会議で印刷していた資料を Microsoft の Onedrive や Teams を活用し、紙資料の削減を行っている。また、市内学校間の連絡や成績処理においても校務支援システムを活用し、ペーパーレス化を進めている。

(3) システム委員会の設置

校長会長代表、ICT 推進委員会代表、教育センター及び教育総務課を委員とする教育情報システム委員会を設置し、情報共有及び改善・発展策の検討を行っている。

(4) AI デジタルドリルの活用

「AI デジタルドリル」を導入し、持ち帰り学習を行い、宿題として活用している。児童生徒の個別最適な学習に寄与している。

(5) 保護者や生徒、教職員アンケートのクラウド化

Microsoft Forms を活用し、これまで紙で回答をしてもらっていたアンケートをクラウド化。回答及び集計の効率化に繋がっている。

(6) オンライン研修会の開催と研修会動画のクラウド上での共有

教育総務課、教育センター等で開催する研修会、講演会及び会議を、Microsoft Teams の会議機能や zoom を利用したオンラインで実施している。また、当日参加できない教職員のために研修会の動画を必要に応じてアーカイブ配信している。

(7) ICT 支援員の配置

南砺市では市立学校15校に、月2回～3回、ICT 支援員が学校を訪問し、端末の不具合対応等の環境整備、授業支援や教材作りの補助、教職員研修の支援、校務支援等を行っている。デジタル教科書の普及、全国学力テストの一部 CBT 化への対応等、新たに増加している業務への支援・対応も行っており、教員の負担軽減につながっている。

2 「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリストの自己点検結果」における課題

「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリストの自己点検結果」（文部科学省 令和5年11月実施）を数値化した結果は、対象の南砺市内の市立学校14

校の平均が 405 で、全国平均を上回ってはいるが、各校において取組に差があることから、以下の校務 DX における課題があると考ええる。

(1) 教職員のスキルと意識

教職員間に ICT スキルの差があり、ICT の活用に対する考え方も様々である。ICT に対して苦手意識のある教員に対して、どのようにアプローチしていくかが課題である。また、新しいアプリの使用方法を学ぶための時間や授業で活用できるマニュアルがない状況である。クラウドツールの具体的な活用方法を提案するなど、意識改革も含め課題がある。

(2) ルール・規則

教育情報セキュリティポリシーを策定し、全職員に対してチェックリストによる自己診断を実施し、ルールとして制御しているが、情報化が進む近年、限界があるため、出来る限りシステムを用いてセキュリティを担保することが必要である。

3 今後の校務DXの取組について

これらの現状を鑑み、今後は以下の項目について、重点的に校務 DX を推進する。

(1) 教職員向けの取組

・教職員向けの研修会を開催し、ICT 活用スキルの向上を目指す。(継続)

(2) ルール・規則への取組

・FAX・押印の見直しに向けての検討（令和7年度～）

(3) その他

・クラウドサービス活用の拡充（令和7年度～）

① ゼロトラスト環境の構築

利便性を高めるとともにセキュリティ対策も強固にしなければならないため、セキュリティポリシーの周知徹底や多要素認証を導入することでセキュリティを確保していきます。この場合、安全性のみを追求するのではなく教職員の利便性確保の観点も踏まえる必要があり、生き生きと学習指導に取り組むことができる環境を実現するための手段であることを念頭に、ポリシーの順守が目的化することは避けなければなりません。以上を踏まえてゼロトラストを導入することで、場所にとらわれることなく、いつでもどこでも安全に校務が利用できるようになります。

また、校務・指導者用一体端末の利用並びにデータのクラウド化・ゼロトラスト環境の構築のもと、教員、管理職それぞれに効果的な教職員用ダッシュボードの構築をすすめ、より利便性を高めることで業務の効率化を目指します。

②Microsoft365 の活用

Teams による教職員間での情報共有・資料授受や Forms によるアンケートの効率化等は校務 DX 化に資するものであるため、今後も継続して研修実施や優良事例紹介等のフォローを行います。

③アナログな事務手続きの見直し

統合型校務支援システムに備えられたグループウェア機能を最大限活用することで、学校間や市教育委員会と学校間の文書連絡・資料送付を可能な限り電子化します。緊急時やシステム不具合発生時等の FAX が最も効率的に

連絡手段として働く場合を除き、基本的に FAX は使用しないよう、前述の統合型校務支援システム活用に際し、改めて周知・働きかけを行います。これにより、ペーパーレス化が推進され、文書量削減や印刷コスト削減にも一定の効果が期待されます。また、統合型校務支援の導入により、公簿の承認についてはシステム内での完結が原則となるため、押印が不要となります。学校間や市教育委員会と学校間との連絡や通知についても、原則押印廃止に取り組めます。

④テストの採点について

紙のテストの採点業務は単純作業のようで高い厳密性も求められる、教員にとって負担の大きい業務です。AI による採点システムを導入している先進自治体の取組を参考にし、ICT を活用した採点業務の効率化について調査研究します。